

令和7年度第2回寝屋川市文化振興会議 会議録

- 1 日時
令和8年3月27日（金）10:00 から 10:55 まで
- 2 場所
寝屋川市役所 議会棟4階 第I・II会議室
- 3 出席委員
赤澤会長、油利副会長、伊藤委員、藤田委員、浦部委員
- 4 欠席委員
砂原委員
- 5 事務局
三宅理事、山口課長、河端係長、丸山係長、重本、古川
- 6 傍聴者
なし
- 7 会議次第
 - (1) 開会
会長挨拶
委員交代の報告及び藤田委員挨拶
 - (2) 議案
ア 寝屋川市の文化振興事業について
 - ・文化・芸術活動の活性化
 - ・文化振興のための環境整備
 - ・文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくりイ 寝屋川文化芸術祭について
 - (3) 閉会
会長挨拶

会議録

(1) 開会

事務局から概要の説明を行った後、会長から御挨拶をいただいた。
また、新任の藤田委員から御挨拶をいただいた。

(2) 案件

ア 寝屋川市の文化振興事業について

事務局から資料に基づき説明を行った後、各委員から意見聴取を行った。

・文化・芸術活動の活性化

質問：令和8年度の寝屋川文化芸術祭の予算が、令和7年度と比べて増加している理由は。

回答：隔年で特別事業を開催しており、その事業の予算を計上しているためである。なお、令和6年度は特別事業として日本センチュリー交響楽団演奏会を開催した。

質問：寝屋川ミュージックデーの裏方業務について、どのような業務を行っているのか。また、新たな依頼先はどこを想定しているのか。

回答：主に舞台転換時の椅子や楽器の移動を手伝っていただいている。後任として摂南大学に声掛けをしており、内諾を得ている。令和8年度は大阪公立大学工業高等専門学校と摂南大学に合同で裏方業務を行ってもらい、引継ぎを行ったうえで、令和9年度以降の運営を行っていくことを想定している。

・文化振興のための環境整備

質問：令和8年度の池の里市民交流センター管理運営事業の予算が、令和7年度と比べて増加している理由は。

回答：アリーナ（体育館）への空調設置工事を予定しているためである。

・文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくり

質問：令和8年度の国史跡高宮廃寺跡活用事業の予算が、令和7年度と比べて減少している理由は。

回答：史跡整備工事が令和7年度で完了し、その予算がなくなるためである。

質問：ネットワークサインルート事業とはどのようなものか。

回答：市内各所に設置しているはちかづき像を辿って歩く、史跡巡りの

ような事業であり、これらを通じて、市内の文化遺産に対する興味、関心を持つきっかけ作りを目的としている。

イ 寝屋川文化芸術祭について

事務局から資料に基づき説明を行った後、各委員から意見聴取を行った。

意見：令和7年度の本事業の会場を訪れたが、「会場規模が大きく、分散している」「飲食店が少なく、盛り上がり欠ける」「手作り市は盛り上がっていた」と感じた。特に、グルメマルシェはもっと多くてもいいように感じた。

意見：会場が広く分散化しすぎており、歩くのが大変である。そのため、特定のイベントは観覧・参加していただいても、他の会場は見ただけで、そのまま帰ってしまっているのではないか。

意見：回遊性も強化しなくてはいけないのではないか。

意見：中央図書館のリニューアルや子ども図書館+plus(プラス)の新設、来年には生涯学習施設やアドバンスねやがわの屋上にも新たな施設ができる等、寝屋川市駅周辺に公共施設が充実するからこそ、駅前という利点を最大限に活かした事業にしてはどうか。
市内で最も観客を集めることができる市民会館の大ホールを埋めることに過度にこだわるのではなく、駅前に事業を集約することで、にぎわいを創出し、参加者に寝屋川市駅周辺の施設を知ってもらうことにつなげてはどうか。

意見：本事業をより盛り上げるためには、「目玉となる事業(テーマ)を作る」「食の観点でより力を入れる」「場所が分散しすぎているを集約する」「SNSを活用する」が必要ではないかと感じた。

意見：本事業のターゲット層が明確になっていないように感じた。子供向けにはキャラクターショー、カラオケ好きの人のためには歌うま選手権など、個々の事業が集まっているだけで、事業全体としての目的が十分に整理されていないように思われ、目的の明確化が重要であると感じた。

意見：「楽しい」と「おいしい」が良いのではないか。例えば、茨木市の麦音フェストは、主なターゲットは大人であり、各地から集まる地ビールとおつまみを飲み食いしながら音楽を楽しむというように、目的もはっきりしている。

意見：費用はかかると思うが、京阪沿線への広告・周知活動を行い、他市からもお客さんを呼ぶことができれば、参加者数の増加につながるのではないかと思う。

意見：事業に対する満足度を把握する必要があると思われ、その指標として参加人数で測るのも一つの手ではあるが、事業の目的を「人を集めること」にするのか、「文化芸術活動の発表の場の提供」にするのか、「文化芸術の発展」にするのかによって、それを測る尺度も変わってくる。

(3) 閉会

会長から御挨拶をいただいた。